



空手を知るための10冊⁺

宮城 篤正・選

(元沖縄県立芸術大学学長)

『琉球拳法唐手』 富名腰義珍 (1922 = 初版、武俠社 / 1994 = 復刻版、榕樹社)

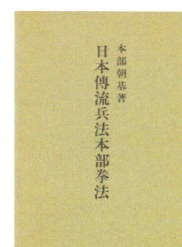
東京で出版された唐手本の嚆矢である。当時は唐手に関する教本が1冊もなく、多くの要望を受けての出版であった。同著には糸洲安恒直伝の唐手がほぼ当時のまま記録されていると考えてよい。



琉球拳法唐手

『日本傳流兵法本部拳法』 本部朝基 (1993 = 拡大復刻版、壮神社)

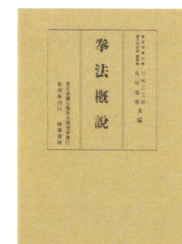
同書には『沖縄拳法唐手術組手編』(1926 年発行)と『私の唐手術』(1932 年発行)の2冊が収録されている。いずれも大変貴重な資料である。「組手編」には本部朝基自身による実技写真も収録されている。



日本傳流兵法本部拳法

『拳法概説』 三木二三郎、高田瑞穂 (1930、東京帝国大学唐手研究会 / 2002 = 復刻版、榕樹書林)

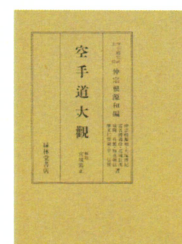
東京帝国大学唐手部員の三木と幹事高田の2人が、東京での指導や練習に種々の疑義を抱き、その解明のため、1929 年の夏休みを利用して琉球に渡り、当時の大家や専門家から聞き取りや実技指導を仰ぎ、その成果をまとめたのが『拳法概説』である。



拳法概説

『空手道大観』 仲宗根源和 (1938 = 初版、東京図書 / 1991 = 復刻版、緑林堂書店)

豪華本で内容には今では失われた貴重資料満載である。口絵の写真集は大家の演武写真など、すべて得難い資料である。中でも注目すべきは糸洲安恒の「唐手十ヶ條」(全文)や花城長茂「空手組手」などもあり、空手研究には欠かせない資料ばかりである。



空手道大観

『史実と伝統を守る 沖縄の空手道』長嶺将真（1975、新人物往来社）

長嶺将真は新垣安吉、喜屋武朝徳、本部朝基らに師事し、1947年「松林流」を名乗る。同書は戦後沖縄発の本格的な空手本である。空手の形18種目を実演する長嶺自身の写真で構成されており、先人の遺訓などの記述もある。



史実と伝統を守る
沖縄の空手道

『空手の歴史』宮城篤正（1987、ひろぎ社）

著者の長年にわたる調査研究の成果に基づいた一冊。戦後の限られた資料を渉猟して、一流一派に片寄らず、大局的な立場から調査し、その歴史を客観的に記述することにつとめている。分かりやすい解説・資料も豊富に掲載。



空手の歴史

『唐手から空手へ』^{ひろし}金城裕（2011、日本武道館）

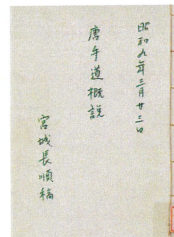
空手の豊かな将来のために、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要があるとして、唐手が誕生し、空手となった過程をたどる。常に唐手の実像の探索に情熱を燃やしてきた著者が、文献と実技を照合した一冊。



唐手から空手へ

『唐手道概説』宮城長順稿（1934、琉球唐手術国際研究会）

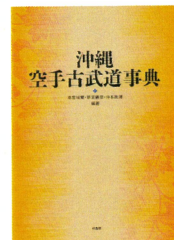
「唐手とは何ぞや」で始まる（一）緒言、（二）唐手渡来に就いて、（中略）（八）唐手指導方法で構成され、手短く、的確な文章は明解である。しかも極めて資料価値は高く、小冊子であるがぜひ紹介したい。



唐手道概説

『沖縄空手古武道事典』高宮城繁、新里勝彦、仲本政博編著（2008、柏書房）

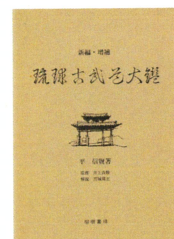
10人の編集委員と多くの研究者・空手古武道関係者の執筆協力を得て、沖縄で初めて刊行された本格的な事典。空手編・古武道編・人物編・資料編で構成された745ページの大冊である。



沖縄空手古武道事典

『新編・増補 琉球古武道大鑑』平信賢（1964＝初版／1997＝新装復刻版、榕樹書林）

琉球古武道の第一人者である平信賢が、戦後の復興期に発展する空手界に比して衰退する古武道の現況を憂い、刊行した。全5巻で計画されていたものの、次巻以降は未刊に終わる。



新編・増補
琉球古武道大鑑